

決 議

公益社団法人日本動物園水族館協会は、総裁、秋篠宮文仁親王殿下のご臨席のもと、多様な生物をはぐくむ太平洋、日本最後の清流と呼ばれる四万十川、これら豊かな自然に囲まれた、ここ高知県において、『「いのちの博物館」動物福祉と保全』をテーマに、平成29年度通常総会を開催し、活発な協議を経て、「JAZA10年ビジョン」の基に行動していくこととしました。

そして私たちは、貴重な野生生物と共生・共存できる持続可能な社会の実現に寄与することを目的として、次のことを決議します。

1. 動物園水族館で考える「動物福祉」

動物園や水族館では、多種多様な生物を飼育展示しています。動物園水族館が今取り組まなければならないこと、それは飼育展示している動物たちの福祉、つまり幸せを考える事です。

動物園水族館で飼育展示している動物たちの福祉の向上を考え、実践すること、ひいてはそのことが動物たちの生き生きとした様子を見せ、飼育繁殖の推進につながることになり、私たちの目指す動物園水族館が「いのちの博物館」になるものと考えます。

2. 「保全」の更なる推進

昭和63年の種保存委員会発足以来、動物園水族館では、種の保存活動を展開してきました。また平成26年度に環境省と締結した「生物多様性保全の推進に関する基本協定書」をもとに、飼育生物の継続的確保と国際的連携、遺伝的多様性を確保した個体群管理、生息域内外保全活動ならびに普及啓発活動に貢献してきました。今年度からは環境省による種の保存に関する「認定希少種保全動植物園等制度」の開始が予定されております。協会は、会員園館とひとつになって「保全」に取り組んでまいります。

3. 動物園水族館の明日にむけて

動物園水族館を取りまく環境はめまぐるしく変化しております。

地球環境の変化、自然がもたらす脅威、人為的な圧力は、多くの動物園水族館のみならず、そこで飼育展示されている動物たち、さらには野生下の動物たちにとって、とても大きな問題です。

これらの問題に対してもしっかりと対応しなければなりません。

同時に、動物園水族館が社会から求められる要求、社会に与える影響も大きくなっております。

動物園水族館の明日に向け、お互いに協力し、普及啓発活動を行い、いかなる困難な課題にも、果敢に挑戦してまいります。

平成29年5月24日

公益社団法人日本動物園水族館協会
平成29年度通常総会